



どうなる我々の未来

— 温暖化は誰にとって不都合なのか? —

編集長: 未来予報家



今、世界は地球温暖化の話題で持ち切りです。ある試算によると温暖化はあと90年で4℃進み、それと並行して寒冷化も1℃進むと言われてます。つまり、2100年までには差し引き3℃上昇する訳です。幸い自動車も新しい技術の進歩により温暖化は食い止められると予測しています。あと10年の辛抱と思います。最近、500km無充電で走る電気自動車も出現しています。地球の未来は明るいと確信しています。ガソリンも100年は大丈夫と言われてます。ロシア、カナダなど広大な国土がありますので、北の方へどんどん移り住めば心配ないと思います。日本もそうです。北海道がとて住みよい土地になると言われています。今年もよろしく願います。

「デイケア(当事者)とその家族」

ペンネーム 幸福の木 (第二部)

今日、この体験談を読まれる方たちの中には、何らかの形で心の病の当事者たちと関係があると思います。(第1部)でも述べましたが、私の母は他界したものの父と義母は健在で、これまで統合失調症という病に對し共に闘ってきたといえるでしょう。

一般的には子よりも先に親がこの世を去ります。そんな事を思えば自分の子どもがいかに生きていけるかを親は真剣に心配しているのではないのでしょうか。ここで私のケースを少しお話します。先にも述べたように私の病は幻覚、幻聴、妄想に心を支配されてました。言動や目もおかしくなりそれを見た父は「この子はもう終えた」と思ったそうです。しかし、入院中の薬やカウンセリングなどの治療等で少しずつ自分を取り戻してきました。そしてある程度たった後、父に「家に入れてくれ」と懇願しましたが、父は頑としてそれを受け入れず「あー、私も施設に入るしかないか」と思っていたところに市営住宅の入居が当選し、父母に相談してそこに住むようになりました(そこに至るまでには、医師の承諾や役所の承諾がありました)。

退院して3年が過ぎた今も市営住宅で生活しております。今はかなり落ち着いて生活しているといえるでしょう。私の父がどんな形にせよ、家に絶対入れなかった理由を私が本当に理解できたのは、退院後デイケアに通うようになりしばらくしてからでした。今、こうして病の症状も一定のところで安定してきた、デイケアからそして作業所へと前へ進んでくることのできたのも、やはり、父が真剣に私の事を思い、私を1人で生きていかなせるためには、どうすればいいのかを考えてくれていたからに他なりません。このように父も一生懸命、私の病を勉強し、理解してくれた事などをかえりみますと、この病氣と共に闘ってきたのだと思えてならないのです。

入院生活の中で自分自身を取り戻し、医師の判断による退院が近づいてくると次のステップとして必要となってくるのがやはりデイケアではないでしょうか。デイケアというところについては(第一部)でご説明したのでこの二部ではあえて書きませんが少しでも付け足すならば、当然、一人ひとりの責任というのがあり、私のように問題をおこせばそれなりの処分は受けます。集団生活を営み、社会性を養うために生活を送ることにすれば当然のことです。

しかし、本人がそれを深く反省し、自分の考えや行動を改めていければデイケア利用を続けさせてくれます。私は、とても寛大な処置をしてくれたと思っています。そういったことをふまえた上でいえば、デイケアという所は自由であり、何に対しても初めから強制したりはせず、メンバーさん一人ひとりの状況に合わせてスタッフも一緒に考えてくださるので緊張したり、かまえたりすることは一切ありません。時にはメンバーさんの相談にのり、本人の希望に合わせて事を進めてくれたり、案外おおらかで笑顔の多いところであります。

ここでいいたいことは、メンバーさんの中には親がいなく親類に面倒をみてもらえなくても一生懸命頑張っているメンバーさんもおられます。幸いにも私には父、亡き母、義母、親族、そして当病院にかかる医師、看護師、心理士、デイケアにすれば当然それらのスタッフが揃っておりましたし、これは本当に感謝すべきことであります。何よりも私には、この病を良くしたいという気持ちが強くありました。そして自分を信じる力、自分を良くしたいという前向きな姿勢を保つためにも、デイケアに通い続けること、そこでいろいろとスタッフに相談しながら自立を目指すことができたからこそ今の自分があるのだと、作業所に通い出した今、私はそれを強く感じます。

最後にどんな病氣でも治るには月日が掛かります。特に心の病の場合、その辛さは目に見えません。問題は繊細でオブラート一枚一枚丁寧にはがすようにとても長い月日をかけて改善されていくものなのです。しかし、方向性さえまちがわなければそんなに哀れな病ではないかもしれません。どうか皆様当事者の方たちを暖かくそして共に病と向き合ったいと私は願っています。

最後にこの体験談を皆様により分かりやすく編集し、ワープロ入力を快く引き受け協力して下さった同じメンバーの方にこの場をかりて感謝の意を表させていただきます。

第二部 終了



＜3ヶ月間のデイケアトピックス＞

- ハイキング(筑豊緑地) 11月26日
- さくらんぼ合唱団演奏会 12月4日
- ブックバイツアー 12月14日
- さくらんぼ合唱団演奏会 12月19日
- クリスマス会 12月21日
- さくらんぼ合唱団演奏会 12月22日
- さくらんぼ合唱団演奏会 12月24日
- 初詣(風治八幡) 1月4日

編集後記

創刊号から3ヶ月がたちました。その間、左記のようにたくさんの行事が企画、運営されました。これ以外にも工夫を凝らした活動があり、書き止めきれていないのが現状です。それでもなるべくメンバーさん(当事者)の生の声や思いを汲み取り、お伝えしたいと考えています。メンバーさんと一緒に取り組んでいること、取り組んでみたいことなどをグローバルな視点をもつ編集長と協力しながらお伝えしていこうと思っています。

「幸福の木」さんのような当事者の生の声は、時々刻々変化するデイケアにおいて色あせることなく輝き続ける貴重なメッセージです。読むほどに味わいのある「幸福の木」さんの純粋な思いが少しでも皆さんに届けば幸いです。(筆名:モジろう)